

第3回全学実行委員会議事要旨

文責:阿部潤

本文書では以下の略称を用いる。

参加者の略称:

長(実行委員長)

榆(榆陵祭代表)

薬(薬学祭代表)

理(理学祭代表)

IFF(International Food Festival 代表)

農(農学祭代表)

獣医(獣医学祭代表)

歯(歯学祭代表)

医(医学展代表)

文(文系祭代表)

工(工学祭代表)

工み(工学祭代表三宅)

工お(工学祭代表小原)

※理学祭、歯学祭、医学展代表は欠席。

その他の略称:

各祭(北大祭を構成する上記の各種学祭)

委員会(委員会という場合、組織としての全学実行委員会を指す)

実委(実委という場合、会議としての全学実行委員会を指す)

事務局(北海道大学大学祭全学実行委員会事務局)

1, 近況報告

- ・全学実委の開催場所として、高等教育推進機構内の教室を借用申請するが、現在は他団体に貸出をしていないため貸出が出来ないとのこと。
- ・課外活動自粛要請が延長
- ・各祭面談を実施
- ・事務との間で詳細な開催日程について話し合いをするため、現在交渉日程を調整中

2, 会計から決算報告

2020年度の総決算についてはLINEを参照。会計監査でミスが発生。50円玉2枚を100円と勘違いしていたため、100円の誤差が生じた。このミスについては修正済みである。

3, 北大祭事務局渉外担当からの報告

北大祭の運営資金の一部は“協賛”という形で集めている。協賛とは北大祭のパンフレットやHPに広告などを掲載する代わりに広告費をもらうことである。企業に協賛のお願いをする関係上、北大祭開催の3ヶ月ほど前に開催日程が決まっている必要がある

4, 夏開催の場合の問題点

4.1, これまでの意見

- ・食中毒のリスクがあることから、衛生基準が厳しくなる。そのため、販売する食品を固定するなどの対策を講じる必要がある
- ・食品提供に係るレンタル用品のサポートが難しい(発電機やテントなど)
- ・熱中症リスクが高まる
- ・院試シーズン、学会と被ると研究室の協力が得られない可能性がある
- ・帰省する学生も多いため、準備・運営の人員不足が心配される

4.2, 意見および質疑応答

工お)夏の定義はどのようになっているのか。

長)9月30日以前が夏、それ以降が秋である。

工お)気候の問題について、9月の終わりごろの気温は6月の初め頃(例年の北大祭の開催期間)の気温と一緒にある。話し合いの補足として、衛生基準・熱中症に関しては話しやすくなるのではないか。

農)IFFに質問。榆陵祭はレンタル用品のサポートがないと厳しいのは理解しているが、IFFについてはどうなのか。

IFF)レンタルのサポートがないと食品提供は難しい

農)レンタル用品のサポートがない場合はIFFとしてお祭りが出せないということか

IFF)様々な可能性を模索している。食品提供が難しいのであれば文化祭のような形態になる可能性がある。その場合はHUISAなどに相談する必要がある。

工み)夏開催の場合でも、9月上旬までと9月中旬からで事情が異なると考える。院試の日程は8月の下旬に大体行っていて、9月中旬ごろになると院試はない。また8月下旬から9月上旬では気温の広がり15度から25度となるが、9月の後半になると10度から20度となる。これは例年北大祭を開催している6月上旬と変わらない気候になっている。これを踏まえる

と、9月上旬までと9月中旬からで分けて考えるのがよいのではないか。

IFF) 先ほどの意見に補足で、公共政策大学院の院試日程は8月31日から9月2日である。

農) 10月の教養棟の使用状況(TOEICなど)をもしわかっていれば共有してほしい。10月開催を考えるときの参考にしたい。

長) 後日共有する。

工み) レンタル用品について、事務局レントオール担当に確認したところ、8月中は協力が厳しいが、9月中について可能性はゼロではないとのことである。

4.3. 各祭ごとの意見

※歯学祭、医学展代表は欠席だが、事前に意見を全学委員長が受け取り、代読した。

農	感染状況が日々変わるので断定的には言えないが、現時点では9月下旬ごろが条件としてよいと考える。寒くなると感染リスクが上がる可能性があり、2日間しか確保できないからである。その場合飲食提供が問題になるが、8月中が厳しいだけであるので条件も変わってくる。飲食そのものも可能な限り控えたほうが良いのではないか。感染状況としてよさそうな夏開催が農学祭としては望ましく、北大祭全体としては、夏開催の状況下でできることを考えたほうが良いのではないか。
IFF	IFFは飲食がメインなので、衛生基準が厳しくなるなどで食品提供が難しいのであれば文化祭のような形態(食品提供なし)で開催する可能性がある。しかしこれはあまり予算の関係から望ましくない。平均気温については、一昨年開催時には想像以上である最高気温32度を超えていた。平均気温で考えることは難しいのではないか。また、就学生の一部は研究生として北大にきているため院試を受ける必要がある。研究生も通常は参加するので人出は少なくなる。
獣医	獣医学際の本イベントは模擬店である。模擬店がなくなってしまうと学生のやる気はなくなってしまう恐れがある。また夏休みでの開催だと人員確保が難しい。テストや実習で手一杯であり、長期休暇で帰省する学生もいる。帰省することを辞めてまで準備に参加する北大生はそれほどいないのではないか。
楡	衛生基準が厳しくなると、参加団体のやりたいことが制限されるためあまり望ましくない。レンタル用品のサポートが8月中は厳しいことから8月中の開催は厳しい。9月以降サポートを受けれるのであれば話は変わってくる。人員不足について、夏休みに北大生の多くは帰省すると考えられるので、北大生全員が北大祭にかかわるということが難しくなるのではないか。
工	(三宅が発言)工学祭としての意見としては特にない。ほかの各祭に合わせる。北大祭全体として、北大祭が2年連続中止になることは避けなければならない。引継ぎがしづらくなる可能性がある。それを前提とすると、9月末の開催が望ましいのではないか。理由としては、3日間開催をする場合は夏休みしか機会がない点、帰省のシーズンとかぶりづらい点、衛生基準が9月末の開催であれば例年通りの基準で行える点がある。北

	大祭は模擬店が顔だと考えているので、模擬店を出す各祭の事情を勘案していきたい。
文	教授に関してはスケジュールがわからないので何とも言えないが、学生などが参加しやすい日程がいいのではないかと考える。しかし文系祭はいつでも学生を集めて準備を進められるので、模擬店を出す各祭の意見を重要視していきたい。また北大祭が対面で開催されることが大切であると考え。
薬	薬学祭は食品提供がメインではないので、食品提供がメインの各祭の意見を重要視していきたい。薬草園ツアーのことを考えると9月下旬が一番良い気候である。衛生基準・レンタル用品の問題がクリアされるのであれば、模擬店の開催が可能となる可能性が高いため、9月下旬の開催が一番良いと考える。コロナのことも考えると夏開催のほうが、リスクが少なそうである。
歯	準備期間がかなり短い、学部内の告知が十分にできないことが問題である。歯学祭ではすでに予定を立てている方が多いため人員の確保が難しいが、秋開催よりは夏開催のほうがありがたい。
医	夏開催・秋開催のどちらであっても対応可能である。

5, 秋開催についての問題点

5.1, これまでの意見

- ・コロナの感染状況が悪化している恐れがある
- ・(時期によっては)留学生の入国が間に合わない可能性がある
- ・実習などにより活動が難しい各祭がある
- ・深夜番の負担が大きい
- ・三日間の日程確保が難しいため、開催期間が短縮される可能性がある。模擬店などの収益減少につながる恐れがある

5.2, 意見および質疑応答

文) 工みに質問。レントオールの協力について、9月なら可能性がなくはないということか。

工み) 担当者に確認したところ、8月は厳しいが9月は確認をしていない状態である。

文) 長に質問。10月については問題ないか

長) 問題ないとのこと

文) 楡に質問。楡陵祭のステージについては時期が変わると影響が出るとかはしないのか

楡) 後で確認する

工み) IFF) に質問。留学生の入国が間に合わない可能性があるとのことだが、秋に入国する方は人員として組み込まれるのか

IFF) 秋に修了する留学生もいる。その人達が抜けると後輩のみで回さなければならなくなるため

問題が発生する。人員は欲しい。

5.3. 各祭ごとの意見

※歯学祭、医学展代表は欠席だが、事前に意見を全学委員長が受け取り、代読した。

農	10月以降の開催であればそのような形で農学祭としては対応する。大学祭全体としては規模の大きい榆陵祭・IFFの方がどう判断するかで考えたい。
IFF	問題点として挙げられたものの中で半分以上はIFF絡みである。しかしすぐに断定はできない。(発言順を最後に回した上で)今後のコロナの状況がどの様になるかは誰にもわからない。金葉祭と同時開催となれば、来場者にとっては嬉しいのではないか。
獣医	問題点としては寒さが挙げられる。ただし食品提供の制約がなくなるのであれば学生も意欲的に模擬店に参加できると考える。実習の比重も秋のほうが軽くなる。他の各祭にとっても食品提供の制約がなくなるのは追い風であり、人員の確保もしやすいのが秋開催のメリットではないか。
榆	衛生基準が通常通りになるなら、団体のやりたいことが全てできるため望ましい。しかし、11月になると寒くなるため秋開催にするとしても10月が望ましい。模擬店ができる・人員確保が容易であることから従来の北大祭に近いものになるのではないか。
工	(三宅が発言)工学祭は夏でも秋でも対応可能である。北大祭全体の意見として、コロナの状況は見通せないため、あれこれ考えても仕方がないかと考える。10月になると研究・卒論などが始まるため厳しいところも出てくるのではないか。また深夜機材番の負担もかかるのが懸念点である。何より大切なのが3日間の確保である。事務との交渉も通らない可能性が高いため、9月末の開催を目指したい。コロナの状況を見て延期するのは致し方ない。開催することを優先したい。
文	秋開催のほうが教授の確保がしやすい。ただ夏でも秋でも対応可能である。しかし食品提供がメインである榆陵祭・IFFの事情を優先して判断したい。また金葉祭の日程も考えながら北大祭の日程を考えていきたい
薬	薬草園ツアーは秋開催になると寒くなってしまうため好ましくない。しかし夏でも秋でも対応可能である。また、メインとなる2年生の後期は実習で忙しいため人員の確保が難しい。感染者が増えて食品提供自体が困難になる可能性も考えられる。
歯	年間を通してスケジュールが決まっているため日程調整が難しい。またテストと重なるため人員確保も難しい。室内企画がメインなので気候の面は問題ない。北大祭全体としては、深夜機材番の負担、及び3日間の開催日程を設けるのが困難であることが課題である。
医	夏開催・秋開催のどちらであっても対応可能である。

6, 今後の予定

- ・5月24日 前期第4回全学実委:開催時期の決定(オンライン開催の可能性が高い)
- ・5月31日 前期第5回全学実委:詳細な開催日程の調整
- ・6月14日 前期第6回全学実委:中止またはオンライン開催の決定時期について

7,最後に

獣医)9月の終わりにやるとした場合の衛生基準をなるべく早く知りたい。学部内での検討ができない

長)近日中に共有する

工み)事務局への意見で、コロナの関係があり日程についても見通せない部分があるので、流動的な日程の変更にも対応できるようにしていただきたい。

金葉祭について場所が薬学祭とかぶってしまう点、金葉祭の運営体制に不安がある点が懸念事項である。コラボすることはたがいににとってプラスになるが話を詰めていただきたい。

長)一点目については事務局長から共有する。二点目については事務との交渉ができ次第私のほうで対応する。

文)文系祭の企画の一部でテントが必要になる可能性がある。レンタル業者の協力が可能かレントオール担当に確認していただきたい。

以上